

住みやすい島へ

対馬市立豊玉中学校 三年

波多江 彩音

私たちの暮らす対馬市の課題で、まず思い浮かぶのが「高齢化」では無いだろうか。私の住む地域である佐保では、本当に殆どの住民が高齢者だ。交流を深めると、皆七十や八十を越える高齢者とは思えない程、元気で活気があることが分かる。ただ、佐保の高齢者の方々が元気なだけで他の地域の高齢者の方

々が健康的な生活を送れているか、と言われると必ずしもそうでは無い。

真、先に改善すべき点は、若者の島外への流出であると考えてる。一人で日常生活が送れなくなつた高齢者を支えるのは基本的に家族や親族だと思つたが、肝心な家族が居なければ高齢者にとつては肉体的にも精神的にも苦痛だらう。デイサービスや老人ホームなどに力を入れるのも良いが、家族との触れ合いや支え合いが何よりも大切だと私は思う。

次に提案するとすれば、地域の子供たちと高齢者との交流できる場や機会を増やす事だ。学校の授業の一貫で、高齢者の方々と昔あそびを一緒にやった。その時の高齢者の反応が予想以上に楽しんでいっているように見えた。小中高と、学校の授業で高齢者に関わるだけで無く、私生活の中でも若者と高齢者が関わり合えるように地域の行事を増やすなど行えば良いのでは無いか。

対馬市が「福祉が豊かになるように様々な

ことを行っているのは分かるが、今の状態はこれから継続していくと思う。高齢者だけでなく、若者も住みやすいような島に変えて行き、島内全体で島民同士の交流を増やす。そうすることで、互いに助け合うことができ、島内の福祉が豊かになっていくだろう。

「こんな物、設備があつたら」「こんな事が行われたら暮らしやすいだろう」となど、住民の意見を聞き、出来る限りそれに応えるようにして欲しい。